

第2号様式（第3関係）

第2回第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会議事録

1 開催日時

令和5年10月30日（月） 午前10時～午前11時50分

2 開催場所

豊山町役場 2階 会議室1

3 出席者

(1) 豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員

委員	中部大学国際関係学部	教授	羽後	静子
	豊山町ケアマネ会	会長	中西	ひとみ
	障害者相談支援センター杜の風	所長	安ノ井	宏隆
	豊山町社会福祉協議会	会長	池山	和徳
	豊山町民生委員・児童委員協議会		小出	真由美
	豊山町福祉作業所保護者会		伊礼	京子
	豊山町シルバー人材センター	会長	水野	典昌
	豊山町ボランティア連絡協議会	会長	齋藤	由紀子
	豊山町保護司協議会		岡島	政信
	小塚歯科医院	院長	小塚	文雄
	志水小学校	校長	近藤	良江
	尾張福祉相談センター	次長兼地域福祉課長	吉田	稔
	公募		大野	安彦

(2) 町

生活福祉部長	井上	武
生活福祉部福祉課長	四浦	かおり
生活福祉部福祉課福祉グループ長	佐々	聖尚

(3) 町社会福祉協議会

福祉活動専門員	田上	美佐
総務管理係主事	福田	浩基

(4) オブザーバー

有限会社クイット

宮澤 史明

4 欠席者

委員	豊山町老人クラブ連合会	会長	井上 輝海
	とよやま内科クリニック	副院長	金森 典代
	清須保健所	所長	栗木 雅洋

5 議題

- ①アンケート調査結果の速報について
- ②計画の体系案（基本構想・基本理念・基本目標）について

6 会議資料

次第

第4次豊山町地域福祉計画・地域福祉活動計画各種データ結果まとめ
町民アンケート調査 学区クロス集計表

第4次豊山町地域福祉計画・地域福祉活動計画構成案

第4次豊山町地域福祉計画の体系

第4次地域福祉活動計画の体系

7 議事内容

【事務局】 定刻となりましたので、ただいまより第2回第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会を開催いたします。本日は老人クラブ連合会代表の井上会長、清須保健所代表の栗木所長から欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告させていただきます。また、本日の委員会の会議録につきましては、発言者の指名を除いて公開させていただきますので、よろしくお願いたします。それでは、はじめに羽後委員長よりごあいさつをお願いいたします。

【委員長】 皆様、おはようございます。第2回目になります。1分お時間をいただいて、高齢者を元気にする活動の報告をちょっとさせてください。ここもすごくご縁があることが分かりまして、ドローンってありますよね。今、空飛ぶ自動車とかバスや飛行機とか我々の世代では考えられない技術が発展していますが、高齢者の人たちにとって、例えば山間部の高齢者を病院まで運んだりとか物を届けたりと、高齢者の生活に関係があって、大事な技術の一つですね。先週、中部大学を代表する、また、春日井市を代表するベンチャースタートアップ企業

として発表しましたが、今度、豊山町の三菱重工跡地のMR Jが撤退した後、オフィスに参画したいと手を挙げているらしく、今は中部大学の下に本社がありますが、一つの拠点というか、豊山町に来ることになったらしいので、私はこのタイミングのご縁でひこうきの町、この豊山町が何かそういう中部大生や春日井市の高齢者がやっているような活動をこちらでも何かできるのではないのかなということ、この間、打合せのときに話したので、またそういうことが次の展開としてつながればいいなと思いました。そういうことがありましたので、ご報告させていただきながら、今日の議題に入らせていただきます。よろしく願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。ここで本日の策定委員会に提出してあります資料のご確認をいたします。配布資料、次第、第4次豊山町地域福祉計画・地域福祉活動計画各種データ結果まとめ、町民アンケート調査学区クロス集計表、第4次豊山町地域福祉計画・地域福祉活動計画構成案、第4次豊山町地域福祉計画の体系、第4次地域福祉活動計画の体系の以上、6点でございます。資料の不足はございませんでしょうか。ありましたら、お申し出ください。

それでは、これからの議事進行は、羽後委員長をお願いいたします。

【委員長】 はい。それでは議事の進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは次第に従いまして、まず議題の1ですが、アンケート調査結果の速報について事務局より説明をお願いいたします。

【議題】

①アンケート調査結果の速報について

【事務局】 アンケート調査結果の速報についての説明

【委員長】 はい、ありがとうございます。説明をいただきましたので、皆さんから質問コメントなどをお受けしたいと思えます。何かありますでしょうか。

【委員】 学区別クロス、これは資料ということですね。学区別のクロスは出ていて、なかなか興味深いですけど、一昔前だと学校ごとに特色があったと思います。わりと豊山町は。昔から新しい住宅が多いとか、学区ごとの結構な特色が色々あったところで、最近は均一になってきていて、ただでさえ小さな町ですから、あんまり学区ごとにクロスしてもあまり差がないですよ。それよりは世代ごとのクロスが必要だと思います。世代クロスであれば、その方が興味深い、参考になる数字が出ていないかなと想像ですけども、そういう風に思うのですが、どうでしょうか。全体のデータとかは出ているのですが、じゃあその世代ごとに例えばサービスに関して、こういう支援が必要な層とかが、世代

ごとにどうなのかというのが、もうちょっと見ると、むしろその方が参考になるのではと思いました。

【事務局】 世代ごとのクロスをその属性ごとで掛け合わせた集計も出していますので、どこのポイントでどういう数字や傾向があるかというのは集計で出せると思います。

【委員】 今日いただいている資料の中にはないですか。

【事務局】 年齢別のクロス資料は、配布していません。

【委員】 事務的に余裕があれば結構ですけども、そういうのが出ると参考になると思いました。思い付きで申し訳ありません。

【事務局】 年齢別のクロス集計は資料として持っていますので、もしよろしければ、第3回の策定委員会にでもご用意します。

【委員】 大変だったら大丈夫です。例えば、そのボランティアに積極的な世代やそうでない世代とか、あと、防災に関心のある世代とそうでない世代とかとちょっと心理的な問題意識になってしまうかもしれませんが、そういうことが分かったと非常にありがたいなと思います。

【委員】 今のお話と関係しますが、情報収集の件で、福祉サービスの情報をどの程度認識できていますかとか、あるいは、情報源はどこが多いかなど。インターネットからも多いということもあるのですが、世代間の違いもあるのかなど。先ほどもお話がありましたが、ボランティア活動で時間がない方が非常に多いですけど、これも世代間によってかなり違いもあると思いますし、世代ごとの整備も必要かなと思います。

【委員長】 ありがとうございます。そうですね。私もそう思いました。例えば、11ページで、「活動をしたことはないが、今後活動してみたいと思う」が3割ぐらいで、「活動したことはなく、今後も活動したいとは思わない」が4割ぐらいいることはどういう風に理解するかですよ。想像ですけど、だから、やっぱり子育て世代はきっとやりたいのだろうな、高齢者世代はやりたくないのだろうな。そういう何かステレオタイプでいいのかですよ。普通、そういう感じですよ。動ける人がやりたいのだと思います。

【委員】 逆に私なんか、元気な高齢者の方がやりたがっているのかなと思います。

【委員長】 そうですね。

【委員】 そういう結果が見えると、すごく面白い。

【委員長】 おっしゃる通り、逆かもしれないけど、それは一つの視点で、むしろ高齢者の方がやりたい、それから忙しい人がやりたくないという風になるかです。次の機会にはもう一步分かるといいですよ。

私は春日井市に住んでいますのでお話ししますが、今、春日井市長は、高齢

者はもう100年時代の中で、高齢者の活動を市民に広げたいと色々なところで喋っておられます。

【委員】 1回目の会議の時に福祉の担い手をどうしていくのかという議論があったと思いますが、まさに、ボランティアのことも参加してもらおうとか、あるいはその災害時の助け合いにどうするのかというのが、これにはつながってくると思います。やはり、地域ごとの分析だけではなくて、世代ごとの分析をやっていただけると、新たな担い手として期待できる部分が、明らかになってくるのかなと思います。

【委員長】 そうですね。おっしゃるとおりです。担い手をどうするかということですね。これすごく大事だと思ひまして、地域福祉って別に対象は高齢者だけじゃないですよ。若い人も含めて、どうやって福祉を考えるかということ。福祉の概念も少し変えていかないといけないし、今はそういう非常に大きな過度期というか転換期に来ているので、地域福祉をどういう風に考えるのかというのは非常に重要だと思います。そういう意味ではこういう小さな町でフットワークのいい町が、いや、私たちは地域福祉をこういう風に考えるということで、その理念というかコンセプトをここでまず共有することが大事ですし、それがプランに下りて一つのモデル事業みたいなことがやれば、これからの100年時代のあり方みたいなものが見えてくる。もう少し時間がかかりそうですけれども、流れとしてはそういう方向になるかなと思います。他の方々もコメントなど。身近なことからこう変わるなど。

【委員】 私も会社を辞めてから運営の難しさには一番苦労しました。会社にいるときに上司から言われたのは、会社にいても、会社は自分の最後まで面倒を見てくれない。だから、地域に帰って今からでも地域に奉仕しなさいよというメッセージがありました。地域の活動に対しては、私は会社を辞めてから、いろんなことに取り組みだしたというのが一つあります。

やっぱりそういう風で会社の定年が70歳とかに延長するように変わってきている。どうしても70歳でゆっくりしたいというのが皆さんの背景みたいですね。だから、特に女性の方は、まだ意外と地域の中で友達付き合いとか活動してみえるが、男性はどうしても、家に入り込んでいるような状況であって、そういうこともあって、私もサロン活動へは、男性を出さないといけないと思っています。色々トライしながら、今のサロン活動の中で、70歳ぐらいの人から90歳ぐらいの人まで、声をかけて集まっています。

【委員長】 それは素晴らしい。

【委員】 そういうことも含めて、先に言われるように、その年代別はやっぱり必要になると思います。ただ、やっぱり一人ひとり、人間というのは変わってくるの

で、そこら辺をどういう風に捉えて分析していくかというのがまた一つあると思いますね。今回でも、2,000人に出したとしても、それは今回については何ポイントか減っていますけど、そこら辺がちょっとおしいなど。何かもう、そこでやっぱり忙しいからなのか、それとも面倒くさいっていうことで出てこないのかというのは分からないですけど、そこら辺が何かうまく対応できて同じ数字になるといろんな評価が出てくると思います。そこら辺が見て感じました。

【委員長】 アンケートですので、これはどうしてもこう簡単な固定質問になると、多分、もっとそうじゃなくてもこっちにも答えてしまうとか、その幅の問題がありますよね。グレーゾーンで、だんだん人は状況によって、また考え方とかジャンルも違うので、アンケートで今回かなりポイントが上がった部分もよく見えてきたので、そこはもっと伸ばしたい。行政と住民の活動で伸ばしたいところだし、マイナスポイントになったところはそこをどう埋めていくかは、質問の仕方だけじゃなくて、やっぱり日常的な、どういう風に我々は行政と一緒にやっていくかというところになるでしょうね。

中部大学で、実はシニア大学を10年ぐらい前から始まりまして、私もゼミを持っていますが、70代80代の方がほとんど男性です。ゼミ長さんは80歳ですが、やっぱりサラリーマンを終えて、ぶらぶらしているのもあれだから、勉強するために始めたことがあります。その年代というか、どのように社会的な繋がりを持つかということで、非常にいいモデルですよ。

【委員】 確かに世代の切り口を分析することが大変重要だと思います。先だって健康・福祉フェスティバルで、中学生のボランティアによるアンケートの内容をお読みしたところ、中学生の参加してくれた方はこういったキッカケがすごくありがたかった。自分としてはボランティアをやりたかったと言う意見がすごく多いです。ですから、現状はこのようになっているんだけど、そういった中学生の志をどうやって育てていくか。そういうことで、先々のイベントを何か描きたいなど。現状こうだからいろんな世代から見てほしいんですけど、一方で中学生としてもそういう意識がありますから、逆に期待が持てるという気がしました。

【委員長】 そうですね。ありがとうございます。

【委員】 ちょっと申し訳ないですけど、まず調査の前提として、町全体を反映するような、そういうランダムにするということはそういう意味があったと思いますけど、結果としては女性がかかり多い。実際の統計で見ると、そんなに男女差というのはないと思いますけれども。

【委員長】 女性の方がこういうのに活動的ですよね。こういうのも協力的だし、地域と

して根付いている印象があります。

【委員】 あと、世代も多分70代がかなり多い。今の世の中だと70代が多いかと思えますけれども、多分、町全体のそういう統計から見ると、やっぱり比率がちょっと変わっているのではないかなと。

【委員長】 そこは重要なご指摘ですが、どうでしょう。

【委員】 回答数の中で70代が多い。

【委員長】 回答者は、女性が多いのと70代が多い。

【委員】 そこが目立ったので、そういうことはちょっと申し上げたいです。現在の町全体のものを反映しているのかどうかということです。

【委員長】 これはどうですか。やっぱり高齢者に答えてほしいという意図はちょうど反映されていますけど、元々どうですか。全世代に聞いているのですか。

【事務局】 そうです。各世代に聞いています。

【委員長】 10代も含めて20代30代もお返事が欲しかったということですね。

【事務局】 そうです。はい。

【委員長】 こういうことになかなか協力しようかというのは、若い世代ではまだピンと来ないのかもしれない。

【委員】 障がい者自身のそういった意識みたいなものがもちろん、全体の統計というところで、この項目でいうと、障がいの人や障がいではない人というのが全体で見ての話ということになると思いますが、もうちょっと障がいの人なら障がいの方の意識みたいなものというのがちゃんと取れなかったのかなと。

【委員長】 それはどうでしょう。

【事務局】 障がいのある人たちへの質問は今回しておりませんが、団体様へのアンケートなどを活用したいと考えております。

【委員】 ヒアリングで団体のアンケートがあると思いますが、手帳を持っている人という括りで何か分析ができたのではないかと思います。

【委員長】 はい、そうですね。また、次の時にはぜひ参考にさせていただいて、手帳のある人たちとかそういう分析も。それは大事なことですし、やっぱりもう一つ、属性を絞るのか、それに配慮したというのは、次の段階では大事になるので。

【委員】 次の段階の話で。

【委員長】 去年、私、豊山町男女共同参画社会づくりプラン策定委員会をやっていたから、LGBTQとかですね。やっぱり今はその人権の視点から、そういう色々な人達をどうやって光を当てるといふか、その問題を拾い上げるのかは非常に大事なことになるので、障がいの方々をやはり気をつけないといけないですね。

この女性の方々の回答が多いというのは、それは納得できる場所もありますし、状況としてどうでしょうか。あるいは今、この豊山町が置かれている女

性、高齢者という状況も少し共有させていただくことがあれば。

【委員】 19ページで「地域福祉を進めていくにあたって、地域として取り組むべきことは何だと思えますか。」という質問がありまして、「災害時の助け合い」というのが多かったというご説明がありましたけど、これ以外ですね。例えば、「地域の見守りや声かけ」も結構ありますし、それから「防災や防犯のパトロール」こちらの方もやっぱり意見が多いですね。さらに、17ページですけど、「豊山町の福祉は何を重点にすべきだと思いますか」について、「健康や生きがいづくり」というものがありましたけども、これ以外にも、「福祉サービスに関する情報提供」、「気軽に相談できる人、集まれる場の充実」ということで、相談できる場や集まれる場の提供のこちらのニーズも結構高いですね。あと、防犯や防災、それから見守り活動だとか、気軽に相談できたりだとか、情報提供してほしいという声が結構あるというのは、この前のページ15ページになりますけど、どのような取組が重要かということで、「安全で快適な生活環境にするための活動」が4割と多く、そこにつながってくるので、次期計画を策定するときには、そういう視点をぜひ入れていただければと思います。

【委員長】 ありがとうございます。どうでしょうか。

【事務局】 先ほどご意見をいただきました年齢別の集計も分析しまして、他のポイントで上がっているところも継続して調査し、第3回の骨子案に反映できたらと思います。

【委員長】 はい、反映させていただきたいと思います。重要なポイントのご指摘、ありがとうございます。「気軽に相談できる人、集まれる場の充実」あたりはいいですね。この質問の仕方は、とても非常に何か温かいというか、これも重要な質問でもあるし、答えが3割ぐらいの人たちがあるので。やっぱりそれが大事なことです。それから19ページの今おっしゃったことも地域の見守り、声かけ、ここの質問は簡単ですけどね、ここが本当に重要で、どういう形で活動したり、行政との連携でここがもうちょっと充実できるかというのは、これは今後のこのプランの最後の結論あたりにも、その提言の中にもどうやってこういうことがやれるかという状況については社協の方からもいろいろご提案が出てくるのかもしれない。他に今のところで言っといた方がいいというか、ちょっと気になった点でもよいですけど。

今日はお時間があんまりなくて、一部だけアンケートの報告をいただいたので、ちょっともったいないぐらいですが、よく見るとどれも他の質問も重要な質問があって、やっぱり3割を超えたりするのは非常に重要だし、3割超えなかったのはなぜかなというような疑問もいろいろ共有して分析する必要があ

るのかもしれませんが。

もしまた、次回でも後ほどでも気が付いたことがあれば、ご連絡、事務局の方にお尋ねいただければと思います。

それではよろしいですか。次へ進めさせていただきます。議題2のところを事務局からよろしく願いいたします。

【議題】

②計画の体系案（基本構想・基本理念・基本目標）について

【事務局】 第4次豊山町地域福祉計画の体系案（基本構想・基本理念・基本目標）について説明

【委員長】 ありがとうございます。続いて、社協さんからご説明をお願いします。

【事務局】 第4次地域福祉活動計画の体系について説明

【委員長】 はい、よろしいですか。事務局からの説明は以上となります。アンケートの結果などがここに反映されたり、あるいはこれからもこういうことが必要ではないかなど、いろんなご意見コメントを伺いたいと思いますが。

【委員】 今回の第4次の町と社会福祉協議会の計画の体系は、よくできていると思います。というのは、第3次の基本目標とかを見ていると、「人づくり」というところがないです。今回、「人づくり」を一面に出したことは、これは本当に素晴らしいことだと思います。やっぱり、第3次はその部分が希薄なものですから、どちらかという、行政という言い方も変ですけど、行政とか私たちの何をやるかとWHATの部分だけです。今回もちろん、それは展開しますが、「人づくり」という大きな項目を打ち出すというのは素晴らしいこと。ぜひ、私たちも一緒に推進していきたい。2点目ですけども、防災について。今、県の防災拠点青山、神明地区で計画がありますが、それにフォーカスを当てて、避難所の運営の仕方も含めて、行政も私たちもやると、これら全く第3次には、なかったものですから、触れられていないです。まさに今回、これが大きなテーマになっている。この2つで大きな目で見ると、今回の第4次については、失礼な言い方ですけど、自分としてはフォーカスの当てた点が素晴らしいなと思っていますけど、皆さんのご意見をお聞きしたい。

【委員長】 はい、ありがとうございます。確かに本当に素晴らしい。「人」にフォーカスを当てたことは、一番重要な当て方ということになると私も思います。

【委員】 地域福祉計画の重点項目の2番目のところで教えてほしいのですが、文言で結構ですけど、「ペアレントトレーニング」というのは、具体的に言うと何でしょうか。

- 【事務局】 対象は障がいの子どもを持っている保護者さんです。発達障害だとか、自閉症だとか、さまざまなことについてご家庭で課題がありますので、もう一つの障害者福祉計画の策定を進めていますけども、それも一つのキーといいますか重点として挙げていますので、ここでも重点項目に記載しています。
- 【委員】 同じところに米印で説明文など入れますか。具体的に言うと分かりづらいですね。
- 【事務局】 計画の冊子として付ける時はここに項目がありまして、具体的にどういったことをやっていくかというような事例を文章で書いていきたいなと思います。
- 【委員】 次ですが、具体的に青山地区で「にぎわい施設」ができますので、開いていただくのは大変結構なことで。あと重層的な支援対策の中で相談支援、参加支援など書いてあるのですが、これはどういった意味なのか。アウトリーチという言葉も分からないので、具体的に教えてもらえたら。どこかに具体的な定義を入れてもらったらよいと思います。
- 【委員長】 よく横文字が多すぎて分からない方が多いですよ。その意味とか定義とかを書くとよいですね。
- 【委員】 地域福祉活動計画の方が具体的に書いてあるので、こっちの方がすっきりしている印象です。なかなかいい表現になっているのに、地域福祉計画の方はちょっと複雑すぎるのではと思ひまして、もう少しすっきりさせてもいいと思います。
- 【委員長】 他に、いかがでしょうか。
- 【委員】 構成案を見ていましたが、私自身もこの第3次は施策の展開があるのですが、ある意味、ページ数が多すぎるかなと思います。この施策の部分は今、質問がありましたけど、施策の部分は重点項目からまた展開されますか。どうなってくるのでしょうか。
- 【事務局】 こちらの一番右側にあります重点項目を見出しにしまして、具体的なものを書いていくイメージです。
- 【委員】 それが第7章の計画の推進ということですか。それとも第5章の中に入ってくるのでしょうか。
- 【事務局】 第4章と第5章に入ってきます。
- 【委員】 第3章の内容プラス、もうちょっと具体的なものも入ってくるということですね。さきほどのご質問とか、そういった内容ももうちょっと踏まえてのイメージ。さっきちょっと失礼な言い方しましたが、この第3次は施策の展開がすごく厚すぎるというか、もう少しシンプルでもいいのではないかなと。それよりもここに書いてあるように計画の進行管理、評価でありますね。この部分が第3次はありません。だから、施策の展開については、もう少し中身を削っ

て、どういうふうに毎年ローリングしていくかを、それを第7章に書いてありますからいいと思いますが、そういうのがあると思いますけども検討してもらえますかね。

【委員長】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】 基本理念ですが、福祉計画の基本理念の説明文の中で、「行政との協働のもとで～目指します。」というこの主語がね、これは誰が目指しますか。

【事務局】 これは誰もがというような表現になっています。行政だけではなく、住民や団体など、誰もがという意味合いです。

【委員】 あえてそうやってアバウトにされようとしているのか、でも、地域福祉計画は行政計画ですよ。そもそも行政計画ということは、これ主体はつまり主語は豊山町で、もっと言えば豊山町の地域福祉担当部署、さらに言えば豊山町長なのかもしれないけど、そこが主語になるべきだと私は思います。少なくとも、行政計画の基本的な考え方から言ってそうなるべきだと思うので、これらだと住民が目指す、住民の皆さん目指しましょうよという。あえてそういうすごいふんわりした表現にされているのだとしたら、それはそれでちょっと私は疑問に思うのですが。

むしろここは、豊山町の行政として、住民が行政と協働の下で、あれこれを目指せるような、そういう政策を行いますという風に、あくまでやっぱり行政主体におっしゃった方がすっきりするのではないかと。そこから関連しますけども、福祉計画と活動計画の両方とも、この真ん中に「地域福祉社会の実現」と書いてあるのですが、大きな風呂敷だなという風に思っていて、ちょっと違和感があります。

つまり、地域福祉は当然、ここは地域福祉審議会ですから、地域福祉はいいですが、その福祉社会というと、皆さん一番よく聞かれる。例えば、北欧のスウェーデンは福祉社会ですよとか、日本も福祉を目指しますとか、結構、国政レベルというか、国家レベル。話が大きくなって地域社会って、普通そういう風に見えるのでしょうかという、ちょっとこれは疑問があります。それでも豊山町のレベルで地域社会というのか、ちょっと疑問があるのですが、例えば、もうちょっと広い範囲で地域社会のあり方を考えましょうと。今はそういう言い方をしたいと思いますけども、地域と福祉の社会を無理やりおにぎりにしたみたい。ちょっと変な響きになりますが、何かそういう気がするので、ここはシンプルに「地域福祉の実現を目指して」とか、それぐらいにしておいた方がいいのではないのでしょうか。ちょっとあまりにも話が大きくなりすぎて。とてもじゃないけど、5年で実現はできないし、豊山町だけ、つまり、1町で実現できるものでもないと思います。これはむしろシンプルに「地域福祉の推進」

とか「地域福祉の実現」を目指しているとか。その辺の書き方はいろいろあると思いますが、そういう風に考えられるのではという気がします。先ほどのお話で、「人づくり」に重点を置く。そういう考え方でやることはすごく素晴らしいことだと思うので、それが一番だと思いますけども、その場合にその「人」を作って、具体的にここで想定されている人を作っていくその対象は、例えば学校で啓発を行ったり、住民に対して啓発したりというようなことが想定されているような気がしますけども、まずその前提として、社会福祉協議会の持っている人的な資源。要するに職員の皆さん、いわゆるケースワーカーの皆さんをどういう風に育てていくのかというような、そういう視点がまず大前提として強調されていく必要があるのではないかなというように思います。そこがその具体的な仕組みづくりの中の重層的支援体制ですね。例えば、包括的な相談窓口の運営とかアウトリーチとか言われても、そこがピンとこないのは、そういう活動がこれまでも多分、社協の職員さんたちが、やってらっしゃると思いますけども、そういう活動がやはり実際に町民に対してあんまり見えてない、先ほどのアンケートにもありましたように、まず、そもそも社会福祉協議会の存在はあんまりよく知らない。そこはそういう相談とかアウトリーチとかが、まだまだ不十分じゃないかと。失礼な言い方ですけども、そこがやっぱり充実されていく必要があります。そのために、やっぱり、「人」の充実が一番だと思いますし、社協のケースワーカーの質の向上ということをやっと継続して行っていくということが一番大事なんじゃないかなと思います。だから、その辺で今回、すごく初めて印象がいいなと思ったのは、世代や属性を問わない包括的な相談窓口と書いてありますよね。これはすごく重要なことだと思いますし、それができるような人材をどうやって分析するのかということが、やっぱり、これは福祉計画って行動計画にそれをそのまま書くかどうか。別に書かなくてもいいのかもしれませんが、でも、社会福祉協議会としては、それを重点的に事業として取り組んでいくということが結構、鍵になるのではないかなという風に思っております。

【委員】 分かりました。直接的ですが、まずお答えしますね。実はこれをつくる第3次の時の5年前は、30代前後、いわゆる中堅職員が1人いたかなと。今は積極的に採用しまして、中堅職員が4名います。彼らの育成計画も含めて、この重点項目の中に書き込むようにします。それが一番端的なお答えになると思いますので、人数的に質量とも充実してきましたので、この辺は是非安心してください。

【委員】 すみません。今日、この場でいろいろ長々とおしゃべりするわけにはいきませんので。あの、事務局さんの方にはあらかじめ意見書として提出してある文

書がありますので、その辺もぜひご検討していただいて、進めていただければありがたいなと思います。

【委員】 2点目の評価をいただいた総合支援センターのところですね。これについて、あるいは、問い合わせありましたアウトリーチについて。まだまだどういふものを目指しているかという骨格らしきものがこれから作っていくところが実はあるものですから、それについても中堅職員の4名と一緒に、早期に作り上げてご期待に添いたいと思います。よろしくお願いします。

【委員】 障害者福祉審議会の方にも出ていますので、基幹相談支援センターを豊山町につくるような話が審議会の方にあがってしまして、でも基幹相談支援センターを豊山町独自でと思っても、私はほとんどそんなに実質的機能しないし、無駄だと思います。それよりも、もっと実質を底上げしていく。そのためには、やっぱり他市から学ぼうという姿勢もすごく重要だと思います。その辺を意見書に書かせていただいています、豊山町で独自に基幹を作ってしまうと、そこからもうそれで終わってしまうような気がして。なぜかという、これは意見書に書きましたけど、豊山町ってやっぱり人口1万5,000人くらいで、たったこれだけの面積で少ない。つまり障がい者も少なければ、高齢者も少ない。問題を抱えている人たちも絶対数が少ないですね。つまり、そういう困難ケースのことですよね。実感としてお分かりだと思いますけども、困難ケースの数がありません。そうすると経験を積もうにも積みません。そうすると、どうやって経験を積むかといったら、他市で勉強させていただくしかありません。失礼な言い方かもしれませんが、そういう姿勢がどうしても必要になってくると思います。そのために基幹相談支援センターはどこか近隣と連携して、勉強させていただきに行って、質を上げていくようなことを、少なくともこの5年間はした方がいいかなと思います。

【委員】 どこまで理解してお返事できるかはありますが、相談のある方が直接しいの木に来て障がいのことを相談するケースがすごく増えています。やっぱりそこに拠点は絶対いると私は思うのですが、その時に今のお話ですと、職員は彼も含めて3名体制になっていますが、その3名をどうやって育成していくか。研修も含めて、それももうちょっと大きな福祉会の力を借りながらやっていくかという理解でいいでしょうかね。

【委員】 今の本当にそういうことだと思います。あとは細かいことですが、重層的支援体制がアウトリーチ、多分、アウトリーチを分かりにくいとおっしゃった、アウトリーチ等を継続的に支援していくのところ。アウトリーチを支援するですか。表現が変じゃないですか。アウトリーチをするのは皆さんだと思います。ここだと、アウトリーチなどを継続的に支援していく。アウトリーチでもって、

アウトリーチという方法や手段によって継続的に支援していくということ。

【委員長】 いろいろ貴重なご意見ありがとうございました。細かいところは、引き続き当事者の方々に詰めていただくということになりますが、他にいかがでしょう。

【委員】 地域における福祉の主体は、住民の方々であり、町民の方々ですが、町として障がい者福祉だとか高齢者福祉などいろいろな計画を作っていくことは非常に重要だと思います。町だけでやっぱりできない部分は何かとあると思いますので、そういったところが近隣の市町と広域的な連携だとか協働の中で取り組むべきところかなと思います。町は町の中で取り組んでいくのかは検討の中で取り組まれていかれたら良いと思います。人づくりに意見が出ていますが、非常に重要な視点だと思います。今回の計画の中において、地域の主体性を活かすとか、住民参加の仕組みづくりが感じられまして、これ先程のアンケートの中でもいろいろと問題になっていますけども、ボランティア活動を参加しやすいようにするためには、どうした取り組みが必要かという話の中で時間的・経済的なゆとりがないという意見がかなりありました。住民の方だけじゃなくて、企業だとか、学校の協力や連携も必要だと思います。学校においては、先程の手話教室などの協働という話が出ましたが、これも非常に重要なことだと思いますので、次期計画の中に明記していただけたらと思います。それから、情報発信の関係で、やはりボランティア活動に興味を持っているけれども、こういう活動があるか分からないという意見が3割あるという調査結果ですが、これは、やはり情報発信が重要だなと。SNSやインターネットを通じて、情報発信していただければ、今後の担い手の層も広がっていくのではないかと思います。

【委員長】 よろしいですか。SNSの発信は非常に今後も大事になってくると思いますが、なかなか高齢者にもそれをちゃんと届ける仕組みというのが大事になってきます。はい。他にいかがでしょうか。

【委員】 35ページと36ページのところです。団体アンケート調査結果というのがちょっと載っていますね。これさっきご説明はなかったかもしれませんが、その中にまとめというのがあってですね。商工会とかいろいろ書いてありますよね。どの団体にも同じような感じで悩んでいるというところがすごくあると思います。例えば、参加者の不足だとか、あるいはボランティアする人がいなくなるとか、若手の参加が少ないとかね。どこの団体も悩んで見えるところはあります。だから、多分、福祉の担い手みたいなのところのさっきの話があったと思いますけれども、ボランティアさんを育成して、いろいろ活躍してもらおうというところが大事だと思います。

【委員長】 そうですね。引き続き、事務局で検討していただきます。

他の委員さんはいかがでしょう。

【委員】 みなさんのお話を聞きながら、自分が勉強させていただいているような立場なので、包括的なこととか全く言えないのですが、自分が学校教育に携わっていることで言いますと、今回、福祉共育の充実ということで、第3次は普通の「教育」だったのが、今回は「共育」という目的に変わっていらっしゃるというところがとても素敵だなと思いました。この報告の中でつながっているところで、福祉体験教室の充実と言葉を変えられて、協働企画が誰ってことなので、ちょっとそのまま詳しく聞いてみたいなど。今だと、どうしても障がいっていうところに特化して体験することを過去にやらせていただいていることですが、今回のお話を聞いてみると、子どもたちが地域の中でいろんなところに関われる機会があるといいなと思いました。

中学生がボランティアを体験されたということがありますので、学校教育の中でという学校から外へはなかなか出にくいところがあるので、小学生とかが地域の中でどんな関わりができるのかということ、なかなか小学生一人が参加するのが難しく、どうしても親子でならやれますっていうところだったら出てくるので、そういう取り組みがあれば、親御さんもボランティア活動に意識が高まっていくかと思います。もう少し中学生、小学生のボランティア活動の充実というところも進めていただけるといいのかなというのを思いました。後は個人的なことではないですけど、アンケートは本当にごく一部しか集まらなかったのだからちょっと残念な気持ちと、本当に弱者など困っている人がこのようなアンケートに答えているのかなという部分がすごく不安なところで。自分が親御さんへ答えているのは、いま、不登校児童が多くなっている、子どもも悩んでいますけど、それに伴って親御さんもすごく悩んでいて、精神を病まれる方が結構多くいます。家族の問題でなかなか外からのアプローチが手薄になってしまう。そこに私たちはどのように関わればいいのかとすごく悩んでいるところです。そういう方とお話して、コミュニケーションの場があるのかなとお聞きすると、なかなかピッタリくるものがないということで、それは本当に町が小さいので、同じ症例のお子さんを持っている方が少ない。例えばリストカットだとか、食に対する偏食とか。

そういうことがなかなかピッタリなくて、ちょっと顔を出したいと思いましたということがあったりして、そういうところをもう少し拾えるといいなと思います。非常にここの部分が自殺のこととか、成年後見人のこととかすごく幅広く扱われていらっしゃる、そういうところで悩んでいらっしゃる方もいると思っていただけたらよいかと思います。

【委員長】 はい、大変貴重な意見ありがとうございました。ではそれは事務局の方でも

検討していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【委員】 ケアマネ会を代表して出席させていただいていますが、今のご意見と同じように、高齢者の立場から見ても全く同じだなと思います。我々も先日、自主的に引きこもってしまっしやる、特に男性の介護者とかを皆さんの交流の場を作りたいと思い、ちょっと企画をさせていただいて、ありがたいことに中日新聞にも企画の方を掲載していただいたような経緯もあるんですね。非常に今の時代に必要としているものではありませんが、せつかくこういう計画があるので、町であったり、社会福祉協議会とかと連携をとり合ってやれるっというのが実際問題、今できなくなって、我々が困っていることに対して、こういうものを紹介したいんですがってところで、あと自主的に何かをやるにしても、やはり場所であったり、費用面、ボランティアになってくると、出費の方が支出として出せるものがないというところで場所の提供であったり、そういったことも何かしら支援がいただけると、民間的にもボランティア活動もしやすいし、それがまた社会福祉協議会のボランティアとしての何か参加させてもらえたらというのがあるのかなと思うのですが、そういった声は今現実我々と繋がるというところも、なかなか発信する場所がないことで、今せつかく具体的な声が出てきている中で、そういった、今ある資源というのが生かせるようなものになっていただけると、非常にありがたいかなと思いました。

【委員長】 ありがとうございます。大変重要なポイントです。その点も、ぜひ集まる場所の環境づくりの方も、事務局の方でご検討をお願いいたします。他にいかがでしょうか。

【委員】 ボランティア団体の代表としてきていますけれども、ここに書かれているのはどちらかというところ、ボランティアをする方が充実する項目が多く、ボランティアをされる方があまり載っていない気がします。実際、私がやっているボランティアは翻訳、視覚障害の方向けにしているのですが、対象者の方が全然出てこない。いろいろ作ったものをお送りしたくても分からないし、どこに視覚障がいの方がいらっしやるのか。小さい町の中でも、やっぱり行政は個人情報理由に教えられない。ここに上がっている44ページに身体障害者だけの情報で視覚障害なのかどうなのか、自分たちが情報を調べても分からない。ここの中にそういう障がいがある方が家の中にいるので、そういう人がもう少し目の前に出てくるような対策になるならと思います。

【委員長】 なるほど、はい、大変重要なご指摘。ありがとうございました。ぜひその辺も非常に難しいところでもあります。重要なポイントですので、事務局の方で検討いただきたいと思います。

【委員】 私は保護司会というところから参加させていただいています。この前にお願

いしたことですが、再犯防止推進計画ですが、犯罪被害者への関係が今回新しく取り入れられて、皆さんに見ていただくこととなります。概ねそこら辺はどうなるのかなというのが今一番楽しみだけど、これはちょっと他市町でもある程度できているので、これからそれを参考にしてやっていただく格好になると思います。

あとはちょっと違う話で、うまく開始していると思いますが、避難マップの関係は、去年新栄学区の方だけ作り上げられたと思うんですよね。今年と来年をかけて豊山小学校区を作り上げて、再来年には志水小学校区を作って、豊山町全体のマップができるということが今、防災安全課の方で進められていますけど、その他に防災安全課の中で、そういう要支援者のものも作りたいというそういう表現のこともあって、特にそこら辺も、色々と防災安全課にしろ、いろんな全体的なことで作っていただけると、より一層皆さんが使える計画になってきていい方向なものになるのかなと思います。そこら辺がこれからも含めて、縦のつながりや横のつながり、現地と上手くつながっていただけるのかなというようなお願い事項です。

【委員長】 大変貴重なお願い事項になっていますから、ぜひ防災安全課とも連携して使える内容にしてください。

【委員】 マップの方はイメージが分かるのですが、要支援者名簿というのは、今、動きつつあるのですか。

【委員】 まだまだ動いていない。次の計画として、そんなことをやりたいねというお話があって、そこら辺はまだこれからだと思います。全体的な個人情報の問題等があると思います。

【委員】 ちょうど社会福祉協議会として、いきなり豊山町全体はできないと思います。今回チャンスなのは新栄地区で避難所ができるから、青山主体になると思いますけど、まずどこかの青山地区で個人情報もあるでしょうけど、要支援者の個人情報をきっちり押さえて毎年ローリングすると、そういう活動をまずは青山でというのが今回の主旨ですね。だから私自身も先走っていろんなことを進めていてもいけないので、情報をよく入手しながら進めていきたいなと思っています。

【委員】 まず、踏み出して何かやってみて、改善点を見つけて、使えるものが一番だと思います。

【委員長】 おっしゃるようにやりながら、また改善をしながら使えるような内容を更にバージョンアップできればということでもよろしく願いいたします。他にいかがですか。まだご発言されていない方で、ちょっと気になることがあれば、この機会に伺いたいと思いますが。

この地域福祉社会は一つの行政というか国も含めたり、ちょっと文言であれば、これはこのまま使ってもあくまでそういう豊山町における地域社会というのはどの単位なのかはおっしゃるように、少し広いってこともあるかもしれませんが、あくまで1万5,000人でも社会は社会であるかなという感じはいたします。

【委員】 豊山町としての独自性を出したいという意味です。

【委員長】 おっしゃる気持ちはよく分かります。だから、国の言葉をうまく使いながら、その中で豊山町の言葉というか、言葉の内容をどうやってオリジナルなものを盛り込んでいくかというのは、行政のまた事務局の腕の見せどころでしょうから、行政の方々、ぜひご検討は引き続きよろしく願いいたします。

今日のところの大きな議題は終わりましたので、事務局から何かあれば。

【事務局】 貴重なご意見やお話ありがとうございました。その他といたしまして、第3回の策定委員会につきまして、今回ご審議いただいた内容をもとに計画の骨子案をお示しする予定としています。開催時期は12月中旬から下旬頃の予定といたしまして、日時につきましては別途、通知させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【委員長】 皆さんの方からも言い残したことやコメントよろしいですか。そうしましたら、これで本日の議題はすべて終了いたしました。これを持ちまして、第2回第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会を終了させていただきます。

ご協力ありがとうございました。